最終更新日：　2022年3月1日

授業科目名（講義題目）	産業と技術		**開講学期**	前期
			曜日時限	木曜 II限
			単位数	2
担当教員名	安田　聡子	**講義コード**	**科目区分**	**対象学生**
		22176010	選択	1年生／2年生
開講予定日	①4/14　②4/21　③4/28　④5/12　⑤5/19　⑥5/26　⑦6/2　⑧6/9　⑨6/16 ⑩6/23　⑪6/30　⑫7/7　⑬7/14　⑭7/21　⑮7/28			
履修条件	特に定めないが、『イノベーション・マネジメント』の既習もしくは同時履修が望ましい。	**キーワード**	第4次産業革命、汎用技術、技術と制度の共進化、雇用・賃金、人的資本、プラットフォーム経済	
全体の教育目標	技術と制度の関係を習得し、第4次産業革命が産業や企業に及ぼす影響を深く学ぶ。	**個別の学習目業**	各回の講義で学ぶ理論やコンセプトを使って、現代的事象を論理的に説明できるようになる。	

授業の概要	第２次産業革命の時代、日本企業は活発なイノベーションによって成長し”Japan as No.1.”と賞賛された。だが1990年代以降は「失われた30年」という長い停滞を経験している。現在進行中の第4次産業革命で日本企業が再びイノベーションを活性化できるのかは、①「新しい汎用技術と矛盾のない制度」、②「新技術の発展・普及に有用な人的資本」、③「プラットフォーム経済に適合的なビジネスモデル」を準備できるかどうかにかかっていると言えるだろう。 本講義では①～③のテーマに関する水準の高い文献を精読し、教員が説明を加えたうえでクラス全体で討議を行うことで、受講生それぞれが置かれた環境の中で「第4次産業がどのような形で進行しており、組織の競争力や人間のwell-beingを高めているのか」を分かりやすい形でプレゼンテーションし、論理的に記述できるようになることを目指す。		
授業の最新情報案内方法	・九州大学Moodle		
授業形態	・講義・演習 ・ディスカッション ・プレゼンテーション	**使用する教材等**	・スライド資料（電子媒体） ・テキスト（紙媒体）
授業の進め方	講義を中心とし、リーディング・アサインメントに関連するディスカッションを行う。また、講義で取り上げたコンセプトを使って現代的事象（産業の変化、企業経営の変化等）を分析してプレゼンテーションを行い、フィードバックを得たのちにレポートにまとめる。		

教科書及び参考図書	**◎受講前に受講者が入手する必要がある資料** １．後藤晃（著）『イノベーション：活性化のための方策』、東洋経済新報社、2016年、2600円. **〇受講開始後に必要となる可能性がある資料** ２．カール・B・フレイ（著）『テクノロジーの世界経済史：ビル・ゲイツのパラドックス』、日経BP、2020年、3200円. ３．A.マカフィー&E.ブリニョルフソン（著）『プラットフォームの経済学：機械は人と企業の未来をどう変える？』、日経BP、2018年、2600円. （１については早い時期に完読するが、２および３については受講生の関心やペースに合わせて柔軟に読み進める） **●知識を拡げるために読んだ方がよい資料** 4. 鈴木 他（編）『変貌する日本のイノベーション・システム』、有斐閣、2020年、4200円. 5. 清水洋『野生化するイノベーション：日本経済「失われた20年」を超える』、新潮選書、2019年、1300円.
試験・成績評価の方法等	毎回の授業の準備状況、クラスへの貢献度（ディスカッションでの発言やフィードバックの頻度と内容）、プレゼンテーションおよびレポートの完成度をもとに総合的に評価する。４回以上の欠席は不可とする。